

平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター

原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）

■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階

■Tel:082-503-5855 FAX:082-294-4555

■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp

■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>

■ブログ：<http://kokoro2016.cocolog-nifty.com/shinkokoro/>

ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

No.275
2025年
9月号
(9月17日)

発行責任者

大瀬敬昭
(事務局長)

被爆80年原水禁世界大会開かれる 広島大会には全国から 2200 人

被爆80周年原水禁世界大会が、7月26日の福島大会（参加者600人）から始まり、8月4～6日に広島大会（同2200人）、7～9日に長崎大会（1000人）と開かれました。参加者は改めて核廃絶への思いを確認し合うとともに、そのための原水禁運動の前進に向けた課題を議論しました。



8月4日に開かれた「被爆80周年原水爆禁止世界大会・広島大会」開会総会は、広島市・グリーンアリーナで行われました。開会総会の前段には、平和記念公園から開会総会会場まで「折鶴平和行進」も行われました。

今回は会場ロビーに丸木位里・俊夫妻の「原爆の図第1部『幽霊』」、被団協ノーベル平和賞メダル・賞状（いずれもレプリカ）が展示され、参加者が興味深く鑑賞する姿が見受けられました。

総会の司会是新藤莉々依さん（高校生1万人署名活動OP）が務めました。はじめに、参加者全員で広島・長崎、そしてすべての核被害者に黙とうを捧げました。

《今後の主な予定》

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 10月3～5日 | 平和フォーラム・ピーススクール（広島市内） |
| 10月5～6日 | 核被害者フォーラム（アステールプラザ） |
| 10月9日(木) | 県原水禁常任理事会（自治労会館） |
| 10月17日(金) | 平和運動センター常任幹事会（平和運動センター） |
| 10月19日(日) | 中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い（安芸太田町） |
| 10月20日(月) | 部落解放中央共闘第50回総会（東京） |
| 10月21日(火) | 石川一雄さん追悼、狭山第4次再審勝利広島県集会（ワケ°ア） |
| 10月26日(日) | 部落解放、人権政策の確立を求める県民集会（本郷生涯学習センター） |
| 10月30日(木) | 広島県平和運動センター第31回定期総会（自治労会館） |
| 10月31日(金) | 狭山市民集会（東京・芝公園） |

主催者を代表してあいさつした金子哲夫・共同実行委員長はまず、学徒動員先の爆心地から約 1.5 キロの工場で被爆した植田雅軌・広島県被団協副理事長の被爆証言を紹介。「（原爆で）隣の工場が完全に倒壊し、多くの人々が、瓦礫や柱、梁の下敷きとなった。だれも助けることが出来ず、後悔の念から今も毎晩のように夢でうなされている」。その上で、「市民の命を奪い、核兵器使用の危機を増大させる全ての軍事行動を直ちに停止するよう強く求める」とウクライナやガザで続く戦争の停戦・終結を求めました。

そして、昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞を「長年の被爆証言の努力が、核抑止の大きな力になったことが評価された」とするとともに、「核使用が危惧される情勢の

なか、被爆者の活動への期待が高まっていることが背景にある」とし、「核兵器の廃絶は、原水禁運動の被爆者への約束です。一人でも多くの被爆者のいのちがある内に、核兵器の廃絶を実現させなければなりません」と訴えました。

また、核禁条約に背を向け「核抑止」に依存し続ける日本政府を強く批判し、早期の「核兵器禁止条約」への批准を求めるとともに、核実験のみならず、ウラン採掘から始まる全ての核サイクル社会で、常に核被害者が生み出されていること、その被害は、弱い立場、少数者に押しつけられているとして、原発政策を含めた核廃絶の重要性を指摘しました。

さらには、今なお、置き去りにされている在朝被爆者問題の解決や「国家補償の被爆者援護法」の制定を求めました。

続いて、来賓として広島市市民局国際平和推進担当局長の山藤貞浩さんが、松井・広島市長からのメッセージを代読しました。

そして福島原発をめぐる現状と課題について、福島県平和フォーラム事務局次長の福地勉さんが発言。政府が進める原発回帰のエネルギー政策のなかで、遅々として進まない廃炉作業の実態が覆い隠されていることを始め、生活と健康に多大な被害をもたらした原発の再稼働を許さないため、ともにとりくむことが訴えられました。

被爆者からの訴えは、日本被団協代表委員で広島県被団協理事長の箕牧智之さん。被爆当時 3 歳 5 ヶ月だった箕牧さんは、父を探すため母に連れられ「入市被爆」しました。戦後、大病を患ったり、貧しさのなか働きながら学ぶなどの苦労を重ねられてきました。そして、核廃絶、戦争のない世界の実現に向けとりくまれてきた思いが語られました。

続いて、東京・広島・長崎選出の高校生平和大使と高校生 1 万人署名活動実行委員会



のみなさんが登壇。広島選出の高校生平和大使の3人が核なき世界に向けがんばる決意を述べました。

海外ゲストからは、代表してアメリカ・ピースアクションのリリー・ドラグネフさんがスピーチ。世界的な混乱のなかでも希望はあるとし、決意をもって草の根の力で現状を打開し、核なき世界をめざしとりくむとしました。

続いて、ドイツ緑の党のハーアルド・イブナー・連邦議会議員のビデオメッセージの上映、サハラ・アラブ民主共和国外務省のブラヒム・モジタール・アジア局長からのメッセージが紹介されました。

谷雅志・実行委員会事務局長の大会基調の提起では、被爆80年を迎え現世代のがんばりこそが問われていることが強調され、そのためにも、被爆の実相を学ぶことの重要性を指摘し、原水禁大会を基軸に、引き続き運動を継続していくことを訴えました。

最後に、秋葉忠利・代表委員が閉会あいさつし、これまで真摯に核廃絶に向けてとりくまれてきた被爆者の皆さんをはじめとしたすべての人びとへの感謝を述べました。また、核廃絶への強い意志と勇気を持つことの重要性を確認するとともに、一人ひとりが当事者として、主権者として、行動の第一歩を踏み出すことを呼びかけました。

大会二日目は、広島市内・各会場に分散し、平和と核廃絶、脱原発、ヒバクシャ、見て・聞いて・学ぼうヒロシマなど6分科会の他、女性

のひろば・子どものひろば等5つの「ひろば」、そして戦時中毒ガスが製造された大久野島と中国人の強制労働が行われた安野発電所（安芸太田町）へのフィールドワークが行われました。

3日目となる最終日は、県民文化センターで国際シンポジウムと「まとめ集会」。「被爆80年・核兵器廃絶に向けた歩み」をテーマに議論されたシンポジウムは、染裕之・原水禁共同議長がコーディネーターをつとめ、リリー・ドラグネフさん（アメリカ・ピースアクション）、イ・ヨンアさん（韓国・参



写真上＝分科会「見て聞いて学ぼうヒロシマ」。中＝国際シンポジウム。下＝あいさつする ICAN のメリッサパーク事務局長

と連帯)、秋葉忠利さん(原水禁顧問、元広島市長)がパネリストとして参加〔コーディネーター:(共同議長)〕。イギリス・核軍縮キャンペーン(CND)からはビデオメッセージが寄せられました。

そこでは、被爆 80 年にあたり、ここまで積み重ねてきた運動の歴史的意義を確認しつつ、核使用の危機が高まる現下の世界情勢を踏まえた議論が交わされ、先制不使用宣言などをステップとした核兵器廃絶に向けた具体的な展望なども語られました。

また、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のメリッサ・パーク事務局長が来場し、連帯のあいさつを述べました。

そしてまとめ集会では、「ヒロシマ・アピール」を全体の拍手で確認し広島大会の全日程を終了しました。

被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・広島大会「ヒロシマ・アピール」(案)

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、広島に投下された原子爆弾は、強烈な「熱線」、「爆風」、「放射線」のもと、その年の内に 14 万人もの生命を奪い去りました。そして、生き残った被爆者も、放射線後障害に悩まされてきました。

あの日から 80 年、被爆者は「核戦争を起こすな、核兵器をなくせ」「ふたたび被爆者をつくるな」と、力のかぎりに訴え続けてきました。

そうした中、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)が 2024 年のノーベル平和賞を受賞されました。被爆者のみなさんが凄惨な体験を具体的な言葉で語ってこられたことが、「核のタブー」を確立させる大きな原動力となってきたことが評価されたものです。

しかし、被爆者の平均年齢は 86 歳を超え、残された時間は決して多くはありません。核兵器廃絶はまさに待ったなしの課題です。高校生や大学生をはじめ、核兵器や原発の存在に疑問を持ち、活動を主体的に担おうとする若者や、原水禁運動を支えてきた労働運動や市民運動がいっそう手を携え「核も戦争もない社会の実現」へと歩んでいかなければなりません。

世界では、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの「ジェノサイド」とも言われる攻撃により、多くの市民の命が奪われ続けています。核保有国の軍事行動は、核兵器使用の危機を高めています。

さらには、イスラエルやアメリカ・トランプ政権により、イラン核施設等への攻撃が行われたことは、核拡散防止条約違反であり、許すことができません。

こうした中で、2026 年には、核拡散防止条約(NPT)と、核兵器禁止条約(TPNW)について、再検討会議が予定されており、具体的な前進が図られるのか、極めて重要な局面を迎えます。今年の 3 月に開催された核兵器禁止条約第 3 回締約国会議において、政府は今回もオブザーバー参加を見送りました。戦争被爆国である日本政府には、早期に核兵器禁止条約を批准し、核兵器廃絶をめざす国との連携を図ることを求めます。

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から 14 年が経過しました。政府は事故の教訓と被害の現状を全く顧みず、「脱炭素」を理由に第 7 次エネルギー基本計画において、「原発の最大限活用」へと重大な方針変更を行いました。

福島では、いまだに事故収束が見通せず「原子力緊急事態宣言」が出されたまま、2 万 4 千人が福島県内外への避難生活を強いられています。「核のごみ」は、いまだ最終処分方法さえ決まっていません。政府はこうした現実を直視し、脱原発・脱再処理へと、エネルギー政策を抜本的に転換すべきです。

今年、ヒロシマは被爆 80 周年を迎えました。私たちはこの地に集い、原子爆弾がもたらした被害の実相を再度心に刻み、人類がはじめて受けた衝撃を決して忘れることなく語り継ぎ、行動する決意を新たにしました。

「核と人類は共存できない」の理念のもと、原水禁運動を大きく広げていきましょう。

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・フクシマ、
ノーモア・ウォー、ノーモア・ヒバクシャ

2025 年 8 月 6 日

被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・広島大会

第 50 回県平和友好祭典開かれる

50 回目となる広島県青年女性平和友好祭が 8 月 30 日～31 日、もみの木森林公園で開かれました。参加者は 6 地区から 68 人、企業・産別を超え 1 泊 2 日の間、学習と交流を深めました。

開会式では、「エルベの誓い」の朗読の後、主催者を代表して辻大輝実行委員長があいさつ。

「オキナワ・ヒロシマの

旅、平和の火リレーから続く取り組みの最後になる集会になります。限られた日程の中で、平和について考える機会にしてほしい」。続いて 7 月 2 日から 22 日にかけて取り組まれた『第 44 回反核平和の火リレー』の走破報告を始め、夏期闘争の総括が行われました。

反核平和の集いでは、広島県被爆者団体協議会 山口誠治さんより講演を受けました。その中で山口さんは、自身が胎内被爆者で、被爆当時はお母さんのお腹の中で 8 カ月目だったこと、そして、身重な体で逃げてきた被爆者を看護・救護してきたことなど、お母さんから語られた被爆当時の様子が話されました。その上で「父・姉からはそのような話を聞いたことが無かった。GHQ などの抑圧もあっただろうし、被爆者の助けを求め声を聞きながらも何もできなかった負い目があったのではないかと話されました。

また「私は様々な病気や体調不良に見舞われたが、これらが放射線の影響なのではないかと疑っている。常に被爆の影響を意識しながら生活している」と、放射線が人体に与え続ける影響を意識し続けなくてはならない不安が証言されました。

学習後はスポーツ祭典交流として毎年恒例の「ビーチボールバレー」、夕方には参加者全員でバーベキューを行い地区内、地区間での交流を楽しみました。

2 日目は課題提起として「なぜ原発がなくならないのか」について、福島第 1 原発事故の実態・核燃料サイクルの問題点・発電コストの比較・立地条件・日本のエネルギー



政策の5つの視点から解説し、
原発システムの矛盾点などにつ
いて考えあいました。

続いて、ピースリンク広島・
呉・岩国 平賀伸一さんより『呉
の近現代史から考える日鉄呉跡
地問題』と題して講演を受けま
した。

平賀さんは、呉市が自衛隊・
旧海軍を観光のネタとして売り
出していること。一方で、戦時
中の空襲により多くの死傷者が
出たことや、急激な軍用地拡大
による住民の強制立退き・工廠
での過酷な労働条件による3万
人規模のストライキがあったこ
となど、いわゆる「負の歴史」
については、十分な宣伝がされ
ていないことなどを紹介。その
上で、「軍事力の強化は意図的
に過去を隠すことから始まる」
と話すとともに、「日鉄呉製作
所が閉所し、防衛省が一括購入
し防衛拠点を整備することにな
ったが、軍用地を民有地へと転
換した“旧軍港市転換法”の概
念から逆行している」と問題提
起されました。また、「県と
呉市が依頼した調査でも、民
間企業への売却でも新たな雇
用や賑わいの創設は可能だっ
た。あらかじめ話が進められ
ていたのではないかと疑問を
呈しました。

閉祭式では2日間の祭典集約を
辻実行委員長がおこない、最
後に参加者全員で『平和の火
よ走れ』を合唱し、祭典を終
了しました。



反核平和の火リレー 県内を一周し平和公園に到着

7月2日に平和公園を出発した第44回反核平和の火リレーは、7月22日県内を一周し平和公園に到着しました。リレーは431区間を715人のランナーで走り継がれました。到着式では辻大輝実行委員長が走破報告を行い、県原水禁と平和運動センターを代表し、高橋克浩議長が労いの言葉を送りました。



広島朝鮮初中高級学校チャリティー 金剛山歌劇団公演 2025

開催日 2025年11月6日(木)
時 間 開場 17:30 開演 18:30
場 所 JMS アステールプラザ
＜大ホール＞

チケット 3000円

広島朝鮮学校の支援のための金剛山歌劇団公演が今年も開かれます。ご協力よろしくお願いします。